

中信高校山岳部かわらばん

編集責任者 大西 浩

池田工業高等学校

国立登山研修所 研修報告

今年も、国立登山研修所の「安全登山指導者中央研修会・読図プランニングコース」のお手伝いをしてきた。今年私の担当した研修生は、5名の高校の先生方であった。いずれの方も極めて積極的で、講師である私の学ぶところも大であった。毎年7月と11月に同内容で行なわれるこの研修会は、2年前に研修所が文科省から独立行政法人へと移管するのと期を一にして始まった。今回で5回目ということもあり、研修内容も次第に精選され、実質的な研修会となった。同じ山域を使いながらも、毎年エリアを少しずつ変えているので、私自身も楽しみながら読図を勉強できている。

その内容のおおよそについては、昨年一昨年も紹介しているので、今年は少し趣向をかえて、講師の打ち合わせなどで議論されたこの研修会の意義などについて少し紹介してみたい。

研修会は、「登攀技術研修コース」と「読図・プランニング研修コース」の二つが同時並行で開催されるが、目的は、「登山のリーダー及びリーダー候補者、並びに中高年登山者をはじめとした登山者の指導的立場にある人を対象として、チームの実力にあった目標と計画を立案し、安全登山を実践できる知識と技術の習得を目指す。」ということである。かつての登山は、高みを目指して里山からヒマラヤまで一直線に続く単線の登山観で語ることができた。しかし、現在はそれぞれの趣向にあった登山が出現し、登山も多様化し、体系だった登山観を形成することが困難になっている。そんな状況であるが故に、「安全登山」をするための基本の確認はより重要である。

雪山に行かないから、雪上技術は必要ないのか？はたまた岩登りをしないからロープワークは知らなくていいのか？・・・日本の山は岩場あり、崩れやすい登山道あり、多くの水量豊富な沢があり、夏でも雪渓ありと決して一筋縄ではいかないはず。二つのコースは、それぞれ今述べたような複雑な地形の日本の山を安全に楽しむための基本的な技術としての「読図力を磨くこと」、「クライミングではないロープの利用」を中心に、総合的に安全登山の技術を学び、確認する場として設定されているものである。

事前にこういった確認を行なった上で、実際の研修生のニーズと力量を見ながら、より有効に研修を行なうために、研修中も講師間で連携を密にしながら、研修会を組み立てていく。僕にとってもある意味自分を試され、また教えられることも多いが、今回の僕の担当した研修生は、全員が高体連の先生方だったので、課題も明確に立てることができ、有意義な研修会にすることができた。今回確認し、研修した技術は、自分に引き寄せて言えば、高校山岳部の顧問として、安全に生徒を引率するための必須技術であった。ともに学んだ研修生のみなさんに感謝の気持ちで一杯である。

研修会には塩尻志学館高校の横内先生も参加され、僕の班で研修をされた。報告を寄せて下さったので、以下に紹介したい。

国立登山研修所 参加者研修報告

塩尻志学館高校、横内佳代先生の報告

中央研修は本当にお世話になりました。参加前はかなり緊張していたのですが、大西



いずれも研修の一コマ
メインの藪漕ぎしながら読図を
している写真がないのが残念。

先生が講師で、自分は気が楽になりました。ついていけるか本当に不安だったので。それにしても先生のような顧問がついた山岳部と、自分のように経験の浅い顧問がついた山岳部では生徒の活動にも差が出てしまっていかなあ、と思ったりしました。

今回の研修は正直いって、「敷居の高い」研修であり、参加するかどうか悩みましたが、主顧問になった今こそ、やはりきちんと研修すべきだと思いました。本当に行ってよかったと思っています。班のメンバーが全員高校の山岳部の顧問であったことで目的や課題が同じであり、そのことが研修をより充実したものにさせてくれたと思います。

何よりの経験は徹底した読図でした。コンパスの指し示した方角と自分の行くべき道がぴったり合った時のあの爽快感。一方で予定したルートに出られなかったときのなんともいえないモヤモヤ感。リベンジしたいようなそんな気分さえなるものです。

泥だらけになりながら、虫にいっぱい食われながら立山山麓の濃い藪をかきわけかきわけ、5人で案を「もっと右じゃないか」「尾根が違うんじゃないか」などと意見を出し合いながら歩いている最中は、不思議と充実していて楽しい時間でした。前日に練った計画通りにルートをたどれなかったのが悔やまれます。

最終日の搬送訓練しながらの下山も、何となく仲間意識が生まれたような、これでみんなと別れるのが何となく惜しいような、そんな気さえて、

「この5人で顧問になればいいのになあ」なんて思ったりもしました。自分はロープワークが全然ダメでしたので今後の課題にしたいと思います。

編集子のひとごと

未踏峰ヤズィックアグルへ向けて、出発まであと1週間となった。いろいろなことが、次から次へと押し寄せてきて、殺人的な忙しさ。今週末は、私自身の高所順応も兼ねて、クラブの生徒10人と共に富士山に登る予定。生徒たちにとっては、日本一の富士の山に登ることはかなり楽しみであるようだ。せつかく部員が10人になったのだが、顧問の事情で肝心の夏山登山を経験させてやれないのが、なんとも申し訳ないが、その分、ヤズィックアグルで成果を上げて帰ってきて、秋には多くの山に行きたいと思っている。

5日火曜日、中信安全登山研究会が開催された。西牧、遠藤、松田、横内、藤田、大西が出席。大北3校の学校登山と、各クラブの夏山合宿、夏山縦走を検討した。深志は夏休みに3回山行を計画しているとのこと。すばらしい！ほかの学校もそれぞれに特色ある山行が行なわれる。くれぐれもご安全に。(大西 記)